

ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H30. 2. 28

礼儀、敬語、無礼、失礼、全ては生き方

様々な感動を私たちにもたらしてくれた平昌オリンピックが閉幕しました。日本は、過去最高のメダル獲得ということでした。フィギュア、スピードスケート、カーリングなど、きつと頑張れとテレビの前で応援した子どもたちも多かったことと思います。そんな代表選手たちの姿や言葉は、憧れや頑張ることの素晴らしさなど、子どもたちの生き方に様々な影響を与えてくれるのだらうと想像します。

バンクーバーオリンピックの時、スノーボードの選手で、服装が乱れた代表選手の事が話題になったことがありました。謝罪会見の態度などからマスコミなどから大バッシングを受け、競技とは違うことで大きな話題になってしまいました。当時の新聞では、腰パンを許している学校教育の指導力の低さまで指摘され、とんだとぼっちりだと思ったものです。その選手は、現在も第一線で素晴らしい活躍をしているそうです。大きなお世話かもしれませんが、なぜかほっとします。目指すべきものがあり、試練を糧に努力をし続けているからこそ、現在の活躍があるのだと想像するからです。

共栄小では、心配な報告を聞くこともあります。先生に対して「くそばばあ」とか仲間に対して「死ぬ」といった、言われた方も言った方もあまり気持ちがよくない言葉を発することがあるということです。今に始まったことではなく、昔からどの学校でも起こりうることです。当然、無礼、失礼極まりないので、その都度、指導しています。しかし、「ダメ、いけない」だけでは、おそらなくなりません。どう表現して良いかわからないから、手っ取り早い言葉で攻撃してしまうわけです。しかし、うれしい姿もたくさんあります。

先日、ひばり学級の子たちが、心の友運動のお礼に校長室へきてくれました。何より感心したのは、敬語をしっかりと使って、「ご協力ありがとうございました。」と礼儀正しく言ってくれたことでした。振り返ってみると、彼らは廊下ですれ違っても、「校長先生、こんにちは、見回りですか？」と声をかけてくれます。礼儀や敬語をしっかりと学び、使おうとする気持ちがうれしいです。学校全体でも、高学年になると、礼儀正しく敬語が使える子が増えていると感じています。ご家庭での後押しが、子どもたちの成長につながっていると確信します。

このことから、私たち教師や親は、子どもたちに生き方を教えることが大切だと思います。話し方、聞き方、言葉の使い方、態度等々、これらはその人の生き方が表れるものです。「それは、相手を傷つける言い方だね。」「その言い方はとても温かいね。」「話していて幸せになるような聞き方をしてくれたね。」「そんな経験の積み重ねが子どもたちの生き方を作っていくのではないのでしょうか。失礼、無礼だと言われる人になって欲しいとは誰も願っていないはずです。多くの人から愛され、多くの人を大切にできる人になって欲しいと願っているはずです。そんな目で大人の役割を一度振り返って、子どもたちを導いていきたいと思っています。ご協力お願いします。

言葉には力がある

励ましの言葉は、勇気をつくり、冷たい言葉は、孤独をつくる
賞賛の言葉は、自信をつくり、軽蔑の言葉は、不安をつくる
優しい言葉は、思いやりをつくり、ねたみの言葉は、いじめをつくる
敵しい言葉は、向上心をつくり、馴れ合いの言葉は、墮落をつくる
正直な言葉は、信頼をつくり、唯や偽りの言葉は、憎悪をつくる
誠実な言葉は、感謝をつくり、安易な言葉は、怒りをつくる
寛大な言葉は、調和をつくり、乱暴な言葉は、争いをつくる
礼儀正しい言葉は、人に愛され、無礼な言葉は、師を失う
楽しい言葉は、仲間を増やし、愚痴や不平は、仲間を失う
言葉のない無視や無関心は、社会を崩壊させる

どんな言葉にも、力がある

言葉ひとつで自分かわる。言葉ひとつで仲間かわる
言葉ひとつで学校かわる。言葉ひとつで地域かわる
言葉ひとつで日本かわる。言葉ひとつで世界かわる
言葉の使い方ひとつで幸せになれる。
言葉を上手く使って幸せをつかもう！